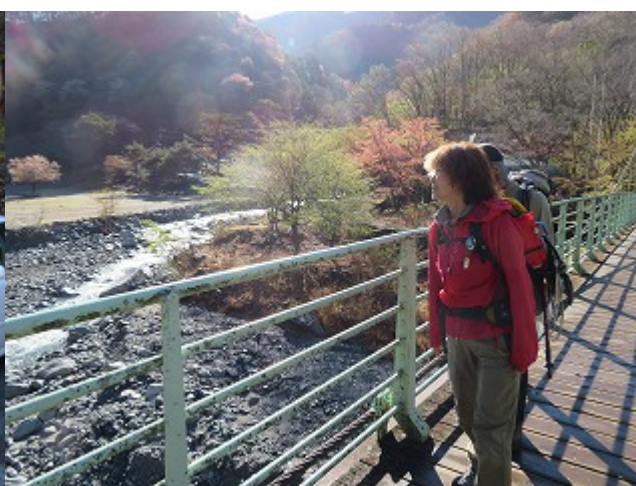


裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真 後藤
山行NO. 1862	
日時 2020年04月19日(日) 晴れ・暖かい	
山域 西丹沢・上権現山～畦ヶ丸～・1119m峰周遊	
コース 長泉6:00-西丹沢自然教室7:20-上権現山・北東尾根-上権現山8:54-西沢分岐-畦ヶ丸・南東尾根-畦ヶ丸10:21-善六のタワ10:58-・1119m峰(昼食)11:11~12:34-・1033m13:01-・849m14:17-720m峰-西沢14:42-自然教室14:54-丹沢湖畔「青空飲み会」-長泉17:30(反省会なし)	
標高差	
上り 自然教室約550m~上権現山1138m=約588m 西沢分岐約1010m~畦ヶ丸1292m=約282m 善六のタワ約1050m~・1119m=約69m	合計=約939m
下り 上権現山1138m~西沢分岐約1010m=約128m 畦ヶ丸1292m~善六のタワ約1050m=約242m ・1119m~自然教室約550m=約569m	合計=約939m
快適度 (5段階評価) 5 (ヤブはない)	
参加者 後藤、加藤、井上=3名	
・ 1033m峰の下りに翻弄・嵌められた	

うんざりする程のコロナ・コロナ。仲間のブログも閉鎖する始末。残念だ。しかし、そんなときこそ、可能な限り、頑張っ山を続けたい。山は近場を選んだ。西丹沢。近いが厳しくて楽しめる。西丹沢自然教室に着いた。予想に反して、首都圏を中心に50台ほどの車にビックリ。山の世界にコロナは存在しないか？！



西丹沢自然教室



河内川・吊り橋

西沢を遡り、上権現山・北東尾根に取りつく。以前は西沢を渡渉したが、今回は右岸を進み、苦労せず杉植林地に進んだ。安全に渡れて良かった。天気は無風・快晴。爽やかな朝だった。



大室山



上権現山

上権現山・北東尾根は、頂上まで標高差約588m。厳しい上り。尾根は全くヤブはなく綺麗で快適。Kが足の不調で遅れた。いつも出だしが調子悪い。Iと途中で二回待った。

振り返り、北の大室山（1587m）を仰ぐと、昨日、降ったと思われる、新雪が光っていた。この時期、高山は時として降雪がある。これで遭難も多い。油断は出来ない。

まあまあ時間で頂上着。丹沢湖を俯瞰。富士山は右手で見えない。少し休憩。K持参のノン・アルコール・ビアをいただいた。美味しかった。

一般道の西沢に降りる分岐まで108m下る。しかし、何故か分岐をパスしてしまった。分岐を過ぎ、



畦ヶ丸頂上

特徴的な地形で気が付いた。パスは以前もあった。ルートが変則的か。

分岐から畦ヶ丸まで標高差約277mの上りは厳しかった。花は、ミツバツツジも開花なしで、山桜が少しと、お山はまだまだ冬枯れ状態だった。モーレツな上りをこなし畦ヶ丸着。とても1300m程度の山と思えない。

早くも頂上でアベックが昼食だった。バリエーションゆえ、思わぬ所から突然現れた、我々闖入者に少し驚いた様子。コロナでいつものように、ベラベラしゃべらず、濃厚接触は避け遠くから挨拶のみ。すぐ善六のタワ（たわみ・峠）に向かった。



珍しい土管

善六のタワ

下っていくと少年が上ってきた。聞けば、両親・妹と来たという。西沢経由の結構大変な道を頑張って来たようだ。下に両親・妹がいた。その先の日当たりのよいベンチに単独行が昼食を摂っていた。

傍らに最近では珍しい「土管」が何故か転がっていた。「土管」は昔、東海自然歩道でよくみた。地中に埋めてあり、タバコの吸い殻など捨てた。ただ、ゴミは回収されないもので、いつも溢れていた。最近では、全く見られなくなったが、何故ここに転がっていたのか不思議。

一般道はコルから人工林の中を西沢に降りている。我々は一般道を外れ、左手の急登に行く。腹が減った。昼食は展望の良い・1119m峰を予定していた。が、Kは善六のタワでとっていていたらしく、いつまでも昼食にならず、大いにクレームだった。



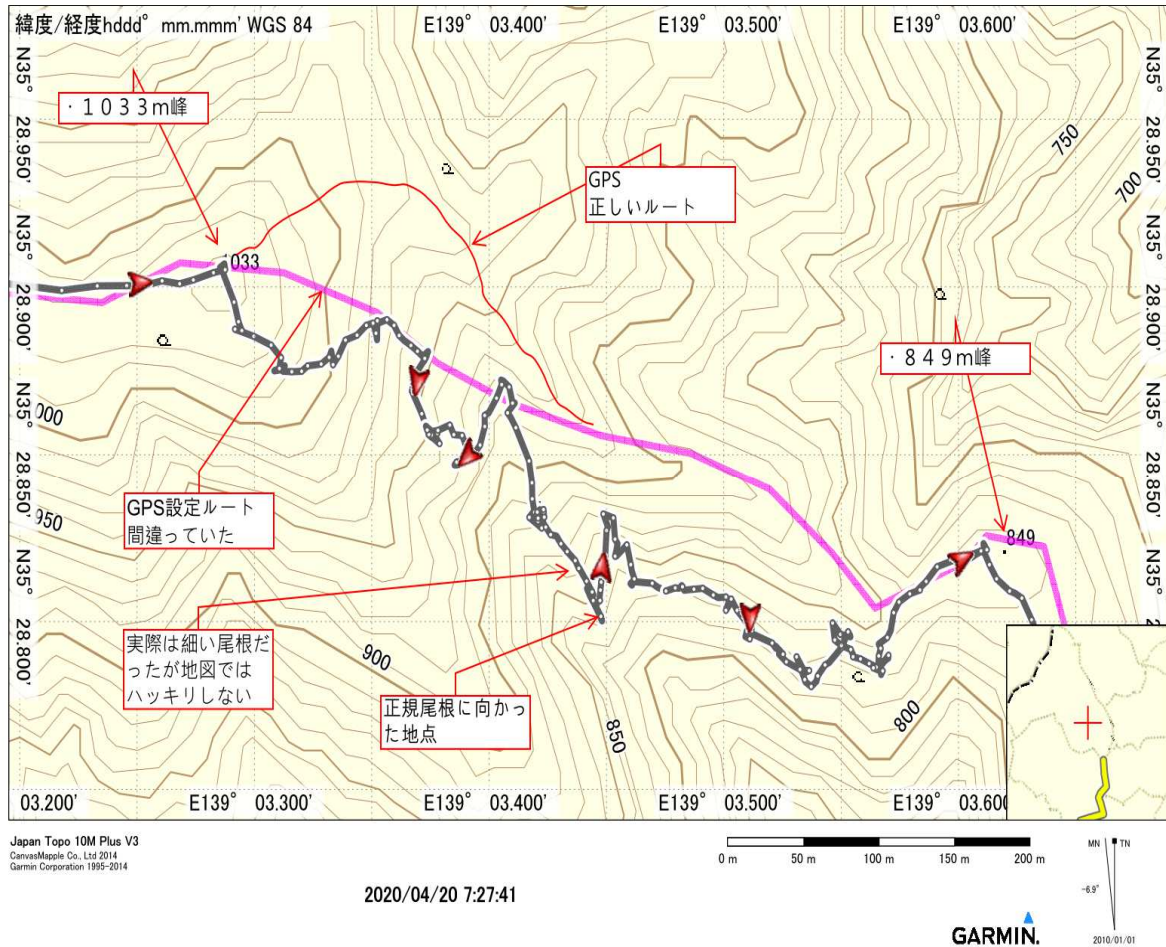
・ 1119m峰（後ろは畦ヶ丸、さらに後方に愛鷹連峰）

・ 1119m峰の上り69mはキツかった。しかし、やっぱり上りきって良かった。燦燦と陽光が降り注ぎ暖かく、展望は素晴らしい。先ほどまでいた畦ヶ丸が大きかった。ここでゆっくり昼食。食後はあまりに気持ちがよいので、30分昼寝をした。これは最近、珍しいことだ。



昼食

30分の昼寝で心身はリフレッシュ。午後の山行に移る。まずは・1033m峰に向かう。いい感じの尾根が続く。大きなブナが林立する。素晴らしい丹沢だった。



・1033m峰に立った。ここから今回の山行のハイライト。・849m峰まで複雑な尾根が続く。慎重に下降が始まった。しかし、結論からいうと今回の下降ルート選定は大誤りだった。

1. 上図、ピンク太字がGPS下降予定ルートだが、何故か最初から外れていた。
2. また、そもそも下降設定ルートが正しくなかった。ここは、2019/9に上っている。その時のGPS軌跡は、ピンクより北のルートの赤細線。
3. ピンク下降予定ルートを外れたが、一旦、ピンクルートに乗った。この時点で左に沢状地形を確認している。ここで沢の北の尾根に気が付けば問題なかった。しかし、何故か右の尾根に向かってしまった。右の尾根は目視ではハッキリした尾根だが、地図上では明確でない。
4. GPS軌跡を見ると、これは完全に「迷走」である。また、下った尾根は、実際は明瞭な尾根だが、2万5千図ではハッキリ確認できない。
5. 正規ルートに戻るべく、荒れた沢を横断したが、非常に厳しく危険なものだった。
6. ・849m峰手前で、ようやく正規ルートに戻ったが、当たり前だが、やっぱり正規ルートは「安全・安心・安定」している。

正規ルートに戻らず、そのまま下降するかの考えもあったが、結果的には、戻って正解だった。また、ここまで突っ込む前、もう少し上部に戻るべきだった。(ただ、尾根が不明だった)

- 7. 2万5千図は、ある程度、拡大しないと明確に尾根など分からない。
- 8. Iが今回地図読みに積極的でなかったが、(メガネが不調だった??) 万全の態勢で臨みたい。



・ 1033m峰

沢にあった人工的な石垣



・ 839m峰



西沢に下る

小尾根を下る選択肢もあったが、基本に帰り、正規ルートにもどるべく、ガラガラの沢に下り、尾

根に向かった。GPSは、等高線で三本くらい(30m)しかないが、実際は沢を2~3本渡らなければならなかった。急激な沢で落ちれば致命傷は免れない。

恐ろしいトラバースだった。こんなところをKは、ルンルンというが信じられない。途中、沢中に人工的な石垣があった。昔、こんなところに人間の営みがあったのだろうか??

何とか無事・839m峰着。ホッと一息。西沢の一般道までは、まずまず安定した道だった。今回の地図読みは、大いに反省させられる部分が多かった。

下山後は、丹沢湖畔で「青空反省会」。昨年、もらい火で閉店していた、「おかべ酒店」が開店で、おめでたい日だった。



・1119m峰



